

---

**はい、ポケモンの世界に転生しました。**

美空

---

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はい、ポケモンの世界に転生しました。

### 【Zコード】

Z5646W

### 【作者名】

美空

### 【あらすじ】

自分の素晴らしい（笑）に気づいていない、前川晃。

そんな彼が、ポケモン世界に転生します。

自分が今まで図鑑登録したポケモンと共に。  
と言つても図鑑コンプリートしているが。

とにかく、転生します。

アニメ沿いになるかもしれないしが、ゲーム沿いになるかも知れない。  
もしくはどちら沿いにもならないかもです。

## プロローグと主人公の自己紹介

……まず、状況を確認しよう。

今、俺は何もない、ただ黒でしなく「白」が広がる空間にいる。ちなみに、胡坐だ。

この空間には俺しかいないらしい。

叫んでも反応が無いからな。

来ている服は俺が通っている高校の制服。

履いているのは学校指定の物。

手にしているカバンは学校指定のもので、中にはパソコン・ケータイ・財布・ゲーム。

教科書と筆記用具? 置き勉に決まってるだろ? あ、あとゲームカセットだな。

で、自分が誰なのか説明しよう。画面に向こうの読者様に。  
俺は前川晃。

ありがちな名前? うるせえ、文句なら親に言え。

高校一年生にして、販売されているポケモンのゲームはすべて制覇。

趣味はポケモン育成と読書。

特技は……無いな。

得意科目は英語と国語、社会、美術、技術家庭、体育、音楽。

苦手科目は数学と理科。

所属部活は無し、所属委員会は何故か図書委員長なので生徒会。

高校生でポケモンが好きと言う幼稚度以外は、全てが平凡な男だ。

記憶をたどってみよう。

俺は今朝、普通に六時に起きて学校に行つた。

今日は数学が無い日だから、かなり気分がよかつた。

朝ご飯はいつも通りのトーストとベーコンエッグ、牛乳。

怪しいものは食べていない。

……食べていない。多分。きっと。恐らく。もしかしたら。ひょつとしたら。M a y b e。

で、幼馴染の天才男を迎えに行って、一緒に（不本意ながら）学校に行つた。

ここで、気分が少し悪くなつた。

だつて、隣から「きやあああああ！」

なんて言られてみ？しかも、俺に対してではなく、天才男に対してだ。

天才男は天才男で「あの子たちが可哀想だよ」なんて苦笑いで言うし。

話がそれたな。学校に着いて、下駄箱を開けた。したら、中から「ドサドサドサツ」

つて手紙が落ちてきた。どうせ中身は「天才男さまの好みのタイプを教えてください。」

だからいつも家で捨てているんだが。

で、これに対しても天才男から「お前、本当に自覚していないの？」なんて言われるし。何を自覚しろって言うんだ、何を。

で、いつも通り手紙を袋に突っ込んで教室に行つた。軽く「おはよう」と挨拶をして、席に着いた。

今日は特に行事が無いから、朝読書だったな。

余談だが、読んだ本は ツチエルの風と 去りぬ、五巻。

朝読書が終わつて、天才男と（不本意ながら）音楽室に移動した。特に変わつた事はないから、学校生活は飛ばそつか。

で、放課後だが。どつかの馬鹿な図書委員がしつかりと本の整理をしなかつたので

俺がやる羽目になり。居残りだつた。許すまじ。

で、結局五時まで残つてた。どんだけ溜めてたんだよ。

学校を出て、まっすぐ帰宅しようとした。  
校門を出た先から、記憶が無い。  
気が付いたら、ココにいた。

これは、ひょっとしたら  
友達が言っていた、「神様やつちやつたパターン」ではないか?  
自信はないし確認もしないが、考えられるのはそれだけだ。  
まあ、天才男へ浴びせられていた黄色い声を聴くのもウンザリだつ  
たし。

「いやあ、お待たせお待たせ!御免ね、少し手間取つちやつてさ

この時、俺は感じた。

コイツ、天才男と同類だ。

「いやあ、お待たせお待たせ！御免ね、少し手間取っちゃってさ」

「コイツ、天才男と同類だ。

イケメンは敵である。

そう考える奴よ、今すぐ俺のところに来い。

同じ考え方を持つ者同士、仲良くやろうぜ。

とにかく、コイツは顔よし！スタイルよし！な、イケメンである。今すぐにコイツをこの世から抹消したいぜ。

「あのさ、スルーしないでくれない？それはそれで傷つくんだけど？」

「そうか、それは良かつたな。

俺としては、イケメンは傷つけばいいという考え方を持つている。理由？そんなの、天才男の引き立て役になつて、俺が必要最低限以下しか目立たなかつたからだ。  
それは置いといて、

「俺はスルーしていない、お前が勝手に話しているだけだ。」「うわっ、キツッ

「神様にそんな事言つていいの？！」

What?

「お前が神様？紙様の間違いじゃないのか？」

「失礼な！僕は神様！」

「神様が僕、ねえ。神様つて、我とか儂とか余つて言つイメージが

あるんだが「

「呼び方なんてどうでもいいよーとにかくー君には、地球にサヨナラ  
ラしてもいいからねー!?」

「どうせお前のミスだらう

これが友達の言つていた事か。

「五月蠅い、確かに僕が君を誤つて殺しちゃいましたーすみません  
でした」

「だつ」

「謝る気無いだろ、お前」

「ない。」

「即答すんなやこの年齢不詳神め。」

……なんだこの間は。

ポケモン、だと……？

「俺が最も愛する一次元じゃないか！」

「あ、そうなの？じゃあちょうどいいね。

君にはお詫びとして、これに書いてあるのの幾つかをあげるよ

### 転生補正候補

- 一、今よりもかなりカッコいい容姿
- 二、道具及び木の実の上限なし
- 三、脅威的な身体能力＆度胸＆知能
- 四、今まで登録したポケモン全てを連れていく。その際、ステータス、レベルは上限まで。
- 五、かなりお茶らけた人になる
- 六、真面目すぎる人になる
- 七、性格は今まで、それ以外は

上記の物（五、六以外）にして転生。

「……これ、普通に七じゃないか？」

「ですよね。つつーわけで」

嫌な予感しかしないぞ？

あ、下に穴がある。

ん？穴？

「わお、現在急降下中じゃないか。

てか、ふざけんな！」の糞紙が！

「行つてらつしゃい」

「何が「行つてらつしゃい」だーふざけんな

！」

……前川晃、2011年10月5日、死去。

死因、トラック運転手の飲酒運転による事故。  
本当の死因は、神によるミス。

そして、同時刻。

「ポケットモンスター」の世界に、一人の男が現れた。

その名も

「アキト・ストレイン」

またの名を、「前川晃」。

## 世界説明（前書き）

付け加える可能性が大あり。

## 世界説明

この小説では、原作と異なる点があります

### 異なる点

- ・名字がある
- ・人種がいくつかに別れている
- ・ポケモンが喋る
- ・ポケモンが主人になついたら擬人化可能
- ・ボールの種類が増える
- ・ポケモンは技を幾つでも覚えられる

### 原作からの引き抜き

- ・ハートゴールド・ソウルシルバーの、先頭のポケモン連れ歩き。  
全地方共通。
- ・ブラック・ホワイトのポケセンとフレンドリーショップの合体。  
全地方共通。

### 名字について

「オーキド・ユキナリ」のように、名字が前に来るのと、「サトシ・アーカイブ」（原作にはない。）のように名字が後ろに来るのがある。

### 名字が前に来る人種

人種名・芽射人種

世界人口、四分の一を占める。

芽射人種を細かく分けてみた。

名字に色（英語でも何でも）を用いる種・右辺色人種  
名字に特に何も用いない人種・右辺無人種

名字が後に来る人種

人種名・灰人種

世界人口、四分の三を占める。

灰人種を細かく分けてみた。

名字に色（英語でも何でも）を用いる人種・左辺色人種  
名字に特に何も用いない人種・左辺無人種

容姿にコレ、といつて特徴的なモノが無い。

そのため、名前を聞くまではどの人種かがわからない場合が多い。

シゲル、グリーンは兄弟設定、サトシ、レッドは従弟設定です。  
レッドは母方の名字（芽射人種）を使用します。

## 旅の始まり（前書き）

短いです。

## 旅の始まり

「さて、と荷物の確認荷物の確認  
荷物の確認

確認

お？お？

へえ、ふーん。

おお。

確認終わり。

リストアップしよう。

- 1、携帯電話（充電の必要なし）
- 2、パソコン（バッテリー切れなし）
- 3、ゲーム（持っていたカセット全て保存されている）
- 4、財布（中には999万円）
- 5、木の実袋（何故か四次元につながっている）
- 6、道具袋（何故か四次元につながっている）
- 7、大切なモノ袋（何故か四次元につながっている）
- 8、灰色の手帳（この世界の説明やらなんやらが書かれている）
- 9、バッジケース（全地方制覇）
- 10、ポケモン図鑑全国版（制覇）
- 11、リボンケース（制覇、トップコードイネーターラしい）
- 12、トレーナーカード（名前はアキト・ストレイン）
- 13、ポケギア・ポケナビ・ライブキヤスター  
(ジムリーダー、博士、四天王、チャンプの番号入り)

こんなもんか。

「じゃ、今いる手持ちどご対面つと」

鬼が出るか蛇が出るか？

もしくは悪魔が出るか？

俺としては、アイツ等が出て来てくれるとい嬉しいんだが。

「…………お前いかよ、つたく…………」

嬉しい！

嬉しそうで泣けてくるぜ……泣かないけどな。

「炎飛、草菜、修羅、電羅、嬢、旋律」

嬢【アキト?】

旋【アキト、みたいですね】

修【やつと、会えたな】

電【シシシ】

草【……嬉しいですね】

炎【……フン】

嬢【炎飛、素直になりなよー会えて嬉しくせん】

「…………お前ら、人の言葉喋れるのか？」

【【【【【喋れないと】】】】】

「…………じゃあなんだ、俺がお前の言葉を理解してると?」

【【【【【そうなる】】】】】】

「…………それでも息ぴつたりだな、おい。

なんとかなるだろ」

「じゃあ、戻ってくれ。嬢、お前は残れ。一回でも出しつくと

【【【【【はーへおうへつるー】】】】】

【はーへ】

それにして、俺が一番気に入つてた奴等が来るとはな  
これから、面白くなるんじゃないかな?

「さあ、旅の始まりだ！」

他の奴等には、あとで会いに行くか。

## 主人公と手持ち、道具の確認

名前：アキト・ストレイン（前世名：前川晃）

年齢：高校一年、早生まれなため未だに16歳

誕生日：3月28日

星座：白羊宮・牡羊座

血液型：A型

性格：極めて温厚。争い事は……まあ、人並みぐらい？に好む。

能力：主人公スキルとして「ザ・鈍感王」の称号を獲得。  
成績は上の上で平均得点は毎回95点以上。

運動神経は100メートル8・78秒。（長距離の方が得意）  
要するに完璧人間。

容姿：元々がかなりカッコいいのに加え、「今よりもかなりカッコいい容姿」「

を手に入れたため、敗北感が襲つてくる。

現在の立場：世界リーグチャンピオン（その時の名前は？ソラ？）

トップコーディネーター（その時の名前は？チアキ？）

現在のカバンの中身：

1、携帯電話（充電の必要なし）

- 2、パソコン（バツテリー切れなし）
- 3、ゲーム（持っていた力セツト全て保存されている）
- 4、財布（中には999万円）
- 5、木の実袋（何故か四次元につながっている）
- 6、道具袋（何故か四次元につながっている）
- 7、大切なモノ袋（何故か四次元につながっている）
- 8、灰色の手帳（この世界の説明やらなんやらが書かれている）
- 9、バッジケース（全地方制覇）
- 10、ポケモン図鑑全国版（制覇）
- 11、リボンケース（制覇、トップコード・ディネーターらしい）
- 12、トレーナーカード（名前はアキト・ストレイン）
- 13、ポケギア・ポケナビ・ライブキヤスター  
(ジムリーダー、博士、四天王、チャンプの番号入り)
- 灰色の手帳について：神様が与えた、神の知識が詰まつた唯一無二の手帳。
- 人間関係：男四天王とは悪友、女四天王は天敵兼理解者、ジムリーダーは情報源、
- チャンピオンは頼れる奴等。これらすべてに当てはまるのが「仲間」という認識。
- 「的存在、義理の」：
- オー・キド博士は義理の父、シゲル、グリーンは義理の甥  
(弟的存在)
- レッド、サトシは近所の弟的存在。
- オダマキ博士、ウツギ博士はほつとけない親切な叔父さん的存在
- 在。

ナナカマド博士は親しいお爺ちゃん？って感じかな？多分。

ヒカリは危なっかしい妹、コウキ、ジュン、シンジは弟子。

交友関係・基本的に登場するキャラ全員と面識があり、親しい間柄。

弟・妹的存在、弟子からは慕われている。

彼女が居る。後ほど分かるかと。

好きな場所・森の中

嫌いな場所・発電所（そこで感電したことがあるため）

好きなもの・寝る事、ポケモンと戯れる事、読書、食べる事

嫌いなもの・起きる事（低血圧）

好感を持てる奴・仲間を大事にする奴、優しい奴

嫌いな奴・とにかくウザい奴、仲間を大事にしない奴。（シンジ  
は別）

シンジが焦つていると

察したため

手持ち状態：

炎飛・リザードン、 。覚えられる技は全て覚えている。シン  
ツンデlena不良。

草菜・フシギバナ、 。覚えられる技は全て覚えている。優し  
いお姉さん。

修羅・フライゴン、 。覚えられる技は全て覚えている。厳つ

いけどいい兄さん。

電羅：「デンチュラ、

。覚えられる技は全て覚えている。悪戯

好きのやんちゃ坊。

おませさん。

旋律：「メロエッタ、

。覚えられる技は全て覚えている。礼儀

正しいまとめ役。

## サトシ・シゲルの出発日

『アキトくん、サトシの旅について行ってくれないかしぃり~。』  
「……え?」

な・に・が・お・き・た・?

↖↖↖回想↖↖↖

「嬢ー、わろそろ行くぞー?」

【にゅう。歩くの?】

何を言い出すんだこいつは。

お前体力ないんだから歩けよ。

それにマサラタウンだからね?!

もう田の前だからね!?

これで修羅に乗るだ炎飛に乗るだ言つてきたら  
修羅の修行の相手をしてもらおうと囁つたんだが……

【あ、なんか悪寒がある。よし、アキトー歩こう。わあ歩きましょ

うー。

あー、歩くつて楽しいなー。】

悪寒がしたらしくので歩くと言つだした嬢。

まあ歩いてくれるに越したことないからいいか。

「んじゃ、行きますか。」

【おー!】

↖↖↖回想終↖↖↖

うん、俺普通にマサラタウンに入つただけだよね?  
何で急にハナコさんに捕まつてんの??

「えーと、説明をお願いします。はー。」

『え？ああ、そうよね。今日サトシが旅に出るの。

で、心配だから、腕が立つアキトくんについて行って欲しいなーなんて。

あ、別に強制じゃないから断つてくれていいのよ？』

今日だつたのか、サトシが旅立つ日。

このままサトシにくつづいて行つたら、厄介な奴等に巻き込まれんじやんwww

「嬢、お前はどうしたい？」

【んー？一緒に行つたら？楽しそう】

「……じゃあ、一緒に行きます。サトシは今どいですか？」

『本当？有難うね、アキトくん。サトシなら、まだ研究所に居ると思つわよ。』

あ、シゲルの車が来た。

つてことは、今ピカチュウとど』対面か？

「分かりました。行つてきます。」

『ええ。気をつけてね』

・・・・・

『あれ？アキト兄さん？』

シゲルだ。俺の前では丸いけどサトシの前ではシンシンなシゲルだ。

「おうシゲル。これから旅か？」

『まあね。アキト兄さんは？』

「俺はサトシの旅に同行しろってハナコさんから頼まれたからね。これから研究所。」

『そ、そつか。じゃあ、俺行くから、また今度。』

「ああ、じあな

顔が引き攣つてたのは何でだ?

その頃のシゲル

(……俺がアキト兄さんと一緒に行きたかったのに……)

さてと、研究所に行きますかねー！

……面倒臭いけど。

初バトル

「おー、あれオースズメじゃねーか?」

『何でそんなにアキト兄さんは冷静なんだよおおおおおお…』

ちなみに、サトシの最初のポケモンはイーブイだ。

トレーナーが初めて持つポケモンとしては、かなり珍しい。

レベルも10と割と高く、戦い方次第ではジムリーダーにも勝てるだろう。

と、そんな良いポケモンを貰ったのに、慌ててこね歩ートシ君

「安心しろ、危なくなつたら助けてやる。やれるだけやつてみる。」

お前どいつもこの  
禪ハトハだ

[二二一]

おお、どうやら俺は手持ち以外のポケモンの声も聞けるらしい。

そして、分かつたことが一つ。

この一ノイ

怖いよ、イーブイさん。

『イーブイ、体当たりだ！』

# 【僕達に、近づくんじや】

【ねえよつつ……】

え、何この子。

超怖いんですけど。

何で一匹にしか効かない攻撃が三、四匹にまで効いてるかね。  
しかも体当たりした後の「やつてやつたぜー」

っていうドヤ顔が怖い。

うん、善からぬ事を考えてる人見たいです。

『……体当たりって、一匹にしか効かないんじゃ……』

サトシ、君のイーブイ君はす……  
特殊なよう  
です。

気にしてはいけない。

気にしたら負けだ。

『まあいつか！イーブイ！砂かけ！』

いいのか。

サトシ、君のポジティブ思考も少し改めた方がいいと想つのは俺だけじゃない筈だ。

てが、イーブイ鬼畜！  
もういいじやん！  
オニスズメ砂塗れだし！  
埋まってる！

「ん、まあ初めてにしては上出来。後は、イーブイは加減を覚える事。

サトシは、周りをよく見る事だな。自分の置かれた状況をよく考えるんだ。

あのときは、しつぽを振るをふるの後に体当たりにするべきだつ

たな。

はーい

【はーい……】

ペツトは飼い主に似る。

その通りだと、俺は思いました。（え、何これ作文？）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5646w/>

---

はい、ポケモンの世界に転生しました。

2011年12月17日22時45分発行